

活動報告

団体名	いわてNPO 災害支援ネットワーク
活動名	見えづらく点在する被災地支援に向けた近県岩手からの支援サポート事業
活動期間	2022/04/01～2022/05/30
活動の成果	<p>■対象者や地域の変化</p> <p>発災後すぐは、行政、社協、県内外の支援団体間など、被災者支援のための多様な主体の連携体制が構築されていなかった為、情報収集の重複やニーズへのきめ細やかな対応ができず、被災者の困りごとへの対応に遅れが生じた。</p> <p>被災地支援で活動する団体の情報を整理し、地元団体を中心としたチーム体制を構築することで、ヒト・モノ・カネ・ノウハウなど組織の限界を超えて、被災者支援にあたることが出来た。これにより、自分からHELPを出せない被災者へも支援の手を届けることが出来た。</p> <p>■得られた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北間のネットワーク ・岩手で災害が起きた際にも、県域の中間支援組織として、市町村域のサポートを行う際に役立つ支援ノウハウや実績を積み上げることが出来た。 <p>■前の目標と実際に行ってみての結果</p> <p>現地コーディネーションにおいては、運営面での支援を当初の目的としていたが、現地の状況などから現場に近い範囲での活動の優先順位が高く、その部分のサポートを中心的に行うことになった。</p> <p>市町村域コーディネート（後方支援）では、俯瞰した立場で状況を見極め繋ぐ役も必要であると同時に、現地の中間支援組織の運営面を支えるサポートの必要性も感じた。</p> <p>※数字が出ている地域の情報のみ記載。</p> <p><宮城県山元町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山元ボラセン 完了ニーズ 273 件 <p><福島県南相馬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般ボランティア：のべ 379 人。専門的ボランティア（技術系）：のべ 700 人。 ・一般ニーズ：171 件。技術系ニーズ：196 件。 ・ゆびとまで技術系団体をマッチングした数→147 件。 ・ゆびとまで直接依頼を受けた案件やアウトリーチから吸い上げたニーズ対応→60 件。 <p>上記からも分かるように、技術系ニーズが多い災害であり、7 割以上の案件をゆびとまでマッチングしたことがわかる。多機関連携により、被災者ひとりひとりが抱える個別の課題に寄り添った対応の必要性を強く感じた。</p> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元への引継ぎと引き際 ・災害発生前の平時から、行政・NPO・社協等それぞれの組織文化の違いを認

	<p>めながら、災害時の役割分担や認識のすり合わせが出来ていた方が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々をいかに巻き込み、ノウハウを落としとしていくかも念頭に置き取り組む必要が今以上にありそう。 ・緊急支援から生活案件支援への移行期に伴い、より社協との情報共有・連携を密にする必要があるそう。
<p>寄付者へのメッセージ</p>	<p>皆様の温かいお心遣いに感謝いたします。</p> <p>皆様からの貴重な寄付金は、行政や社協、制度では行き届かない、NPO だからこそ出来る被災者に寄り添ったきめ細やかな活動など、被災地の復興の為に大切に使用させていただきました。今後とも、R4年3月16日福島県沖地震の被災地へ応援の程、よろしくお願いいたします。</p>

(活動のようす)

